

全拉致被害者の即時一括帰国 を求める国民大集会

私たちは、去年の2月に、「親の世代の家族が存命のうちに全拉致被害者の一括帰国が実現するなら、我が国が人道支援を行うことに反対しない」という運動方針を決めました。

その後、北朝鮮は5月に外務次官談話で、岸田首相の高位級協議提案を取り上げ「両国が会えない理由がない」と明言しました。これには当然、金正恩委員長の意思が反映されています。その対話局面は、今年1月、岸田文雄閣下ではじまる金正恩委員長の能登半島地震お見舞い電報、2月の金与正副部長の「首相が平壤を訪問する日もあり得る」という談話につながりました。

この流れを受けて私たちは今年2月25日に「親の世代の家族が存命のうちに全拉致被害者の一括帰国が実現するなら、我が国が人道支援を行うことと、わが国がかけている独自制裁を解除することに反対しない」という新しい方針を決めました。被害者を1日でも早く取り戻すという緊急の目標があればこそその決断でした。

3月の最後の週に、北朝鮮は突然、態度を変えました。岸田文雄政権はこれまでと全く変わらない原則的なことを言っているだけなのに、北朝鮮はそれを問題視し、いかなる接触も交渉も拒否すると高官らが繰り返し表明しています。

しかし、そもそもこれまで交渉がなかったのなら、静かにそのままでいればいいわけです。これまで水面下で交渉をしていたからこそ交渉を拒否すると連日、表明しているのではないかと。水面下で行われている交渉が岸田首相の訪朝の条件をめぐる協議の段階に入り、そこで北朝鮮側がたとえば、「訪朝前の米支援を」などという無理な要求を出し、それを岸田政権が受け入れないので、譲歩を迫るために揺さぶりをかけてきたのではないかと、思われます。

北朝鮮側の言葉に一喜一憂せず、原則を堅持するときです。全拉致被害者の即時一括帰国を求める怒りの声こそが必要です。北朝鮮が目している国民大集会に救出のシンボルのブルーリボンバッジをつけてお集まりください。受付でも販売しています。

警備の都合上、大きな荷物、長い棒、団体の旗、スピーカーは持ち込まないでください。
特定団体の制服での参加もご遠慮ください。

令和6年5月11日(土)

午後2時～4時 シェーンバッハ・サポー



と き 令和6年5月11日(土) 午後2時から4時まで

開 場 午後1時(先着順)

と ころ 砂防会館別館1階、シェーンバッハ・サポー

東京都千代田区平河町2-7-4 TEL: 03-3261-8386

地下鉄永田町駅(有楽町線・半蔵門線・南北線)4番出口徒歩1分

5番出口(都道府県会館前)はエレベーターあり

赤坂見附駅(銀座線・丸ノ内線)が永田町駅に接続

登壇者 岸田文雄総理大臣(要請中)、
林芳正官房長官・拉致問題担当大臣(要請中)、
家族会・救う会代表、拉致議連代表、知事の会代表、地方議連代表、
各党代表、特定失踪者家族会代表

参加費 無料(会場カンパ歓迎)

◆横田拓也家族会代表の東京連続集会 (3/12)での挨拶

今年度の新たな運動方針は「親の世代の家族が存命のうちに全拉致被害者の一括帰国が実現するなら、我が国が人道支援を行うことと、わが国がかけている独自制裁を解除することに反対しない」という内容です。この「わが国がかけている独自制裁を解除することに反対しない」という部分を新たに盛り込みました。

苦渋の判断の末、新しい運動方針を決めました。各地の救う会の方からは疑問の声も上がりました。私たち拉致被害者家族にとっても苦しい判断でした。北朝鮮による日本人拉致問題は、加害者が北朝鮮で、被害者が日本国であり私たち日本人です。これほど単純明快な構図はありません。

その被害者である私たちが加害者側に譲歩して制裁を解除することに反対しない、対話をしましよとすることは通常であれば考えられません。私たちはこれまで一貫して北朝鮮への強い制裁を課すことを日本国内はもちろん国際社会に訴えて来ました。

過去に遡れば、家族会・救う会は万景峰号入港反対デモを行い、「家族を帰せ!」、「船は帰れ!」と叫び続けました。どんな苦しい思いで、どれほど必死な気持ちでとりわけ親世代の拉致被害者家族が声を上げたことでしょうか。

一方で、親世代の高齢化は進み、有本明弘さん 95 歳と横田早紀江 88 歳の 2 人だけがギリギリのところまで戦っている現状があります。親世代が健在の内に再会させる必要があります。

こうした背景から、譲歩する悔しさを押し殺して、対話路線に舵を切ることの苦しい思いと悔しい思いを理解してほしいと思います。

3月4日、家族会・救う会は岸田総理と首相官邸で面会しました。その席で私から、次のようにお話しました。

個人の立場では、北朝鮮への感情は“怒り”、“憎しみ”、“敵対心”、“恨み”しかありません。それでも拉致被害者家族の親世代である有本明弘さんと横田早紀江が自分たちの家族との再会を実現させることを優先させるために大きく方針を変えた次第です。

但し、家族会・救う会は無条件で日本が北朝鮮に課している独自制裁解除に賛成している訳ではないことを改めてこの場でもお伝えします。全拉致被害者の即時一括帰国が実現すること、そしてそれには親世代が健在・存命の内に果たされなければならないというタイムリミットを設けていることを前提条件としています。

仮に、親世代が健在・存命の内に全拉致被害者の即時一括帰国が果たされなければ、私たちは日朝国交正常化交渉には全面的に反対を表明し、日本が課している北朝鮮への独自制裁の更なる強化を具体的に求めることとなります。

◆横田拓也家族会代表の金与正副部長談話へのコメント (3/25)

個人的立場の個々の意見に回答は出来ない。両国が抱える人道問題解決に向けて、金正恩委員長の勇気ある英断を期待する。全拉致被害者の即時一括帰国の要求の水準は変える事は出来ない。

岸田首相に全拉致被害者の即時一括帰国の実現を求める、はがき・メールを!

〒100-8968 千代田区永田町2-3-1内閣総理大臣 岸田文雄殿
首相官邸のホームページ=<http://www.kantei.go.jp/>の「ご意見募集」利用

5/11 国民大集会

主催 北朝鮮による拉致被害者家族連絡会 (代表 横田拓也)
北朝鮮に拉致された日本人を救出するための全国協議会 (会長 西岡 力)
北朝鮮に拉致された日本人を早期に救出するために行動する議員連盟 (会長 古屋圭司)
北朝鮮による拉致被害者を救出する知事の会 (会長 黒岩祐治)
拉致問題地方議会全国協議会 (会長 松田良昭)

事務局 救う会 〒112-0013東京都文京区音羽1-17-11-905
電話03-3946-5780 FAX03-3946-5784 担当=平田隆太郎
info@sukuukai.jp <http://www.sukuukai.jp> (署名用紙・ちらしのダウンロード可)

募金先 郵便振替口座00100-4-14701「救う会」/ゆうちょ銀行 店名019 当座 0014701
みずほ銀行池袋支店 (普) 5620780 救う会 事務局長 平田 隆太郎 (ヒヲリウカウ)